

中央区内景气动向调查

令和元年12月调查结果

令和2年1月29日

中央区

総 括

令和元年 12 月の動き

中央区内における 12 月の現状判断 D I は合計で 38.8 と、前回調査から 0.5 ポイント上昇している。景気の先行き判断 D I は合計で 44.9 と、前回調査と変わらず横ばいである。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	令和元年			前回調査 からの変化
	8 月	10 月	12 月	
合計				
現状判断 D I	46.4	38.3	38.8	(0.5)
先行き判断 D I	35.4	44.9	44.9	(0.0)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和元年12月調査の調査票発送は12月6日（金）、回答期限は12月17日（火）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は49名、有効回答率は98.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で38.8と、前回調査から0.5ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは41.0と、前回調査から6.6ポイント上昇し、企業動向関連DIは36.5と、前回調査から5.5ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が12.2ポイント減少し、「やや悪くなっている」と回答した人の割合が8.2ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

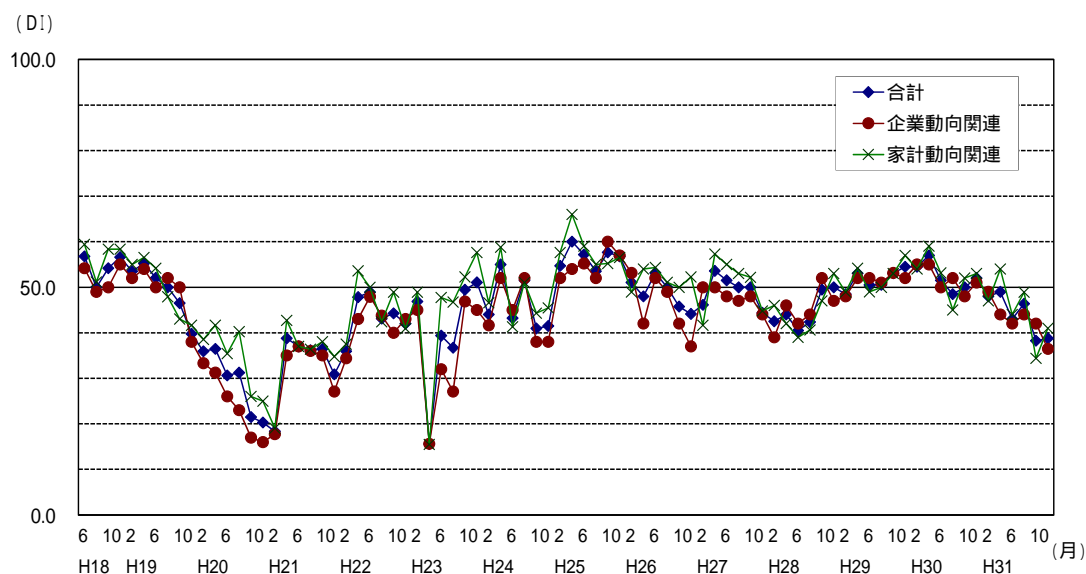
(DI)	令和元年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	46.4	38.3	38.8	(0.5)
家計動向関連	48.9	34.4	41.0	(6.6)
小売関連	55.8	28.8	32.1	(3.3)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	37.5	39.3	42.9	(3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	44.0	42.0	36.5	(-5.5)
製造業	35.0	35.0	25.0	(-10.0)
非製造業	46.3	43.8	39.5	(-4.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
令和元年	8	0.0%	18.8%	52.1%	25.0%	4.2%
	10	2.0%	6.1%	44.9%	36.7%	10.2%
	12	2.0%	12.2%	32.7%	44.9%	8.2%
(変化幅)		(0.0)	(6.1)	(-12.2)	(8.2)	(-2.0)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で44.9と、前回調査と変わらず横ばいである。分野別にみると、家計動向関連D Iは47.0と、前回調査から6.1ポイント低下し、企業動向関連D Iは42.7と、前回調査から5.7ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が10.2ポイント増加し、「悪くなる」と回答した人の割合が4.1ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

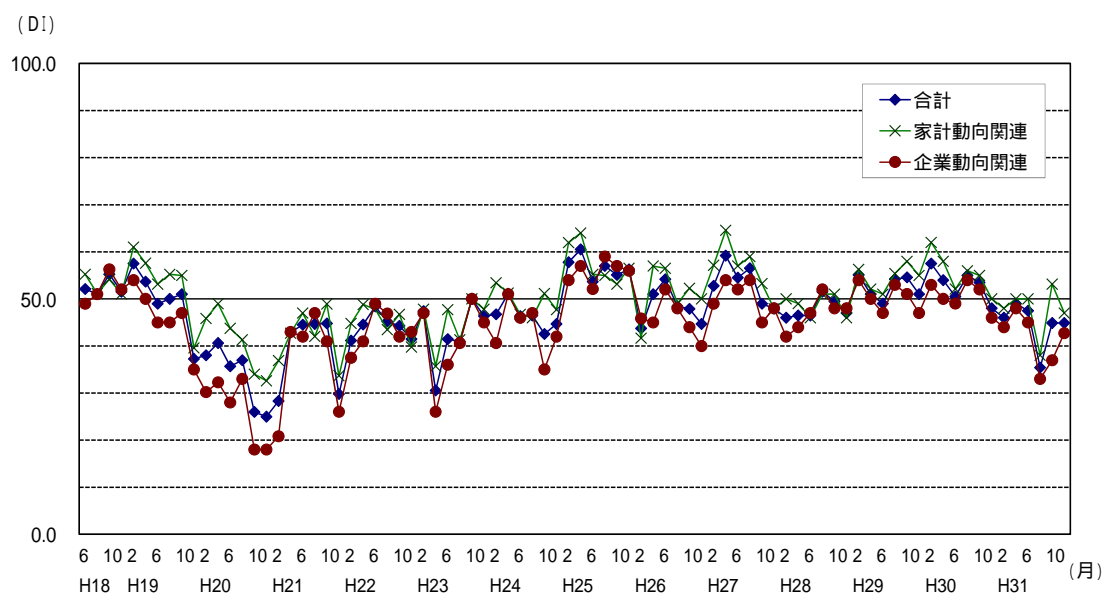
(D I)	令和元年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	35.4	44.9	44.9	(0.0)
家計動向関連	38.0	53.1	47.0	(-6.1)
小売関連	38.5	46.2	48.2	(2.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	45.8	53.6	46.4	(-7.2)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	33.0	37.0	42.7	(5.7)
製造業	25.0	25.0	40.0	(15.0)
非製造業	35.0	40.0	43.4	(3.4)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和元年	8	2.1%	8.3%	31.3%	45.8%	12.5%
	10	2.0%	22.4%	34.7%	34.7%	6.1%
	12	0.0%	18.4%	44.9%	34.7%	2.0%
(変化幅)		(-2.0)	(-4.0)	(10.2)	(0.0)	(-4.1)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

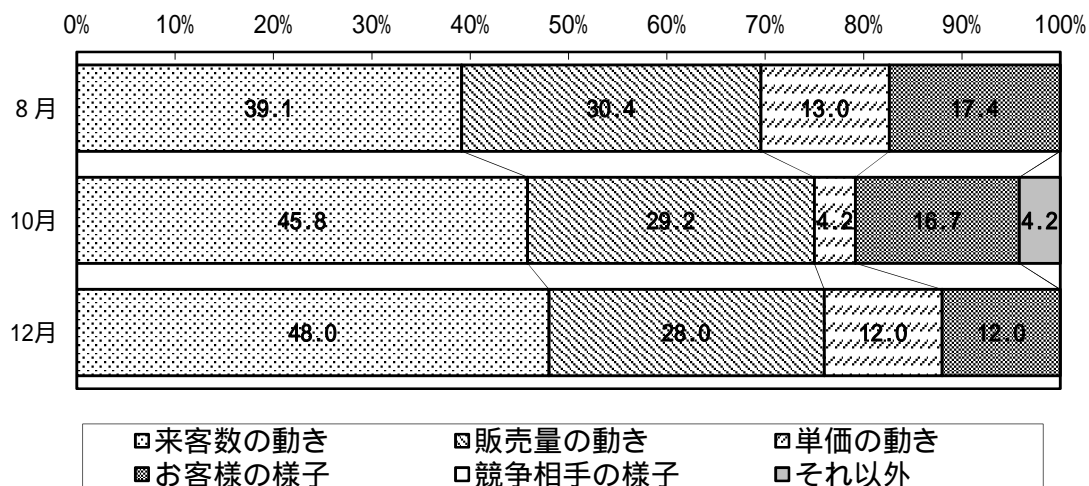
(D I)	令和元年		
	8月	10月	12月
合計	46.9	41.3	41.3
家計動向関連	46.7	37.5	42.0
小売関連	51.9	36.5	30.4
飲食関連	-	-	-
サービス関連	37.5	35.7	50.0
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	47.0	45.0	40.6
製造業	40.0	40.0	30.0
非製造業	48.8	46.3	43.4

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

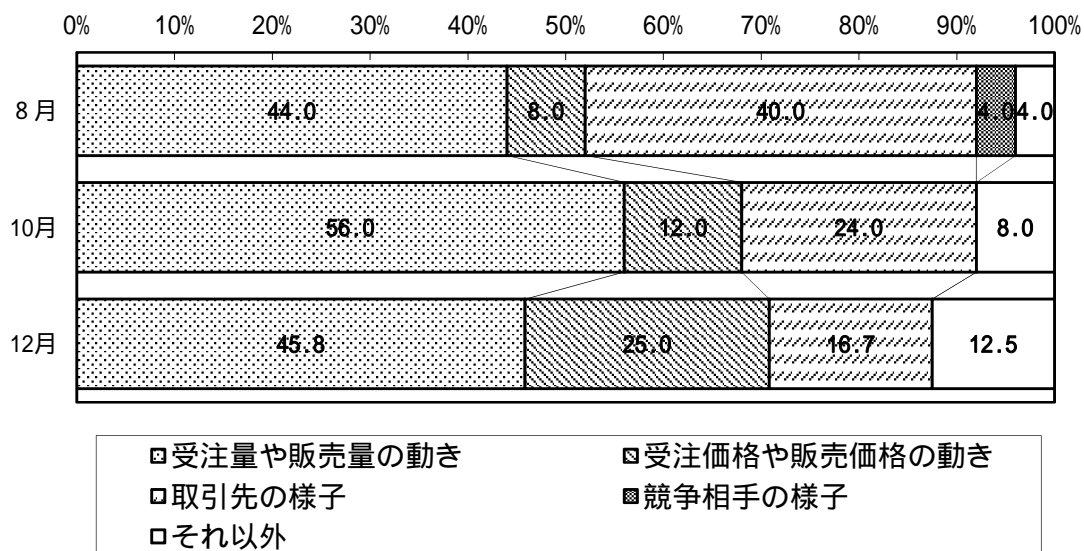
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前月末から12月にかけて、外国人の来場者が増えている。また、お歳暮時期でもありにぎわっている。このまま年末までにぎわいが続きそうである。
	やや良くなっている	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・中間層を中心に消費税増税後の反動が継続している。化粧品、食品等のデイリーユース商材は復調してきている。富裕層も引き続き堅調である。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・新ショップオープンの影響により現状を超える来客数がある。春の大型店舗開業効果も続いている。
	変わらない	一般小売店[文具](販売担当)	来客数の動き	・インバウンド客は増加しているものの、日本人客の減少が目立っている。日本人客の回復が今後のポイントである。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・軽減税率対象の食料品及び特選衣料雑貨の売上が伸長している。冬物衣料は気温が高めに推移した影響もあり、全般的に伸び悩んでいる。
		高級レストラン(経営者)	単価の動き	・緊急整備地区ということで再開発が行われ、古い街並みや親しまれた店舗が激減している。近隣でもその影響を受けて、客層の変化やニーズにこたえきれない店舗が目立つ。数年かけて落ち着くまでは横ばいが精一杯ではないか。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・忘年会やその他の予約が少なく、ふだんの月と変わらない。
	やや悪くなっている	都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・訪日外国人客が国内需要の落ち込みを補っている。
		一般小売店[事務用品](営業担当)	来客数の動き	・最近では来客数が減少しており、10%くらいは落ちている。観光客も見ただけの客が多く、購買につながる確率が低い。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・消費税増税後の買い控えがみられる。デイリー性の高いファッション商材への関心も低調である。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・消費税増税、時短、残業減などの働き方改革による収入減、物価上昇とマイナスと件ばかりで成長が見込みにくい。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・年末時期に入ったが、販売数の動きが鈍く、秋口と変わらない。
	悪くなっている	その他レジャー施設(経営者)	単価の動き	・12月に入ると客同士の会話が耳に入るものだが、今年の暮れはボーナスの話が全く聞かれない。多かったのか、少なかったのか。店も余り良くない。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今月の来客数は前年比82%である。日本人客のみならず、中国人客も大幅に減少している。クリスマスシーズンの盛り上がりも感じられない。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べて受注価格が5%上昇している。
	変わらない	不動産業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・オフィステナントからは増床希望の問合せが多い状況が続いている。契約更新時期を迎えるテナントは、ほぼ全て増額改定で合意できている。
		卸売業[飲食料品(鮮魚)](経営者)	それ以外	・世の中全体の雰囲気として変わらない。
		卸売業[機械器具](営業担当)	取引先の様子	・消費税増税後の受注落ち込みは少し戻ってきており、年末の受注量を比較すると、例年並みである。
	やや悪くなっている	卸売業[機械器具](支社長)	受注量や販売量の動き	・国の補正予算により、災害対策を中心に交付金の使用先が拡がるかどうか注視している。
		出版業(経営者)	それ以外	・街中の飲食店の客入りの悪さが目立つ。消費者は財布のひもを引き締めている。
		出版業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・雑誌の実売率がじりじりと下がり、それに伴い発行部数も減るといった悪循環を繰り返している。
印刷業・製本業(経営者)		受注価格や販売価格の動き	・受注価格が下がっている。	
印刷業・製本業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・事実上、駆け込み需要があったようで、消費税増税後は受注量が減少している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注工事価格が低くなっている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新規受注量が増えない。問合せはあるものの、結果として契約には至っていない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ほとんどの相手先の動きが悪くなっており、発注量がかかなり減少している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・消費税増税や天候の関係で景気が停滞している。商店街も、店舗によって格差はあるものの、良い店舗でも勢いが無い。
	悪くなっている	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・10月以降、明らかに得意先の仕入れが減少している。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店 [文具] (販売担当)	・2020年東京オリンピックイヤーは好材料である。インバウンド客の増加と日本客の心理的变化に期待している。
		一般小売店 [靴] (店長)	・入学、入社等、新生活がスタートする時期なので、やや良くなる。
		百貨店 (広報担当)	・東京オリンピックを目前にして、マインドが改善し、内需が伸長する。輸出関連企業の業績も回復する。
		コンビニ (店長)	・このところ客単価、販売数は横ばいであるが、天候不順だったことを考えると、やや良い方向に向かっているのではないかと。
	変わらない	一般小売店 [食品] (店長)	・やはり消費税増税の影響は大きいように感じる。軽減税率により食品は8%のままとしても、手っ取り早く切り詰められるのは食品である。
		百貨店 (総務担当)	・春先までは消費税増税の反動減で、必要な物だけを買う動きが継続する。
		百貨店 (総務担当)	・消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減が続く。減少幅は小さくなっているものの、影響が長期化することも予想される。
		スーパー (店長)	・東京オリンピックまでは大きく変動するような要素は感じられない。
		衣料品専門店 (店長)	・今が底であり、2~3か月はこのままで推移する。
		高級レストラン (経営者)	・再開発が落ち着くまで目立つような動きはないとみている。
		高級レストラン (副店長)	・10月は消費税増税で来客数が減ったが、11~12月は戻ってきた感がある。予約状況を見ても良い流れが来ている。
		一般レストラン (経営者)	・前年も今年も売上は変わらない。消費税が上がっても変わらないということは、売上自体は下がっているのではないかと。
		都市型ホテル (経営者)	・我々の商売相手は国内、国外の方々であり、今のところは国外からの客によって支えられている。
		通信会社 (営業担当)	・東京オリンピックの景気に余り影響がないので、例年通りの伸びに留まっている。
	通信会社 (営業担当)	・良くなるという材料がない。	
	競馬場 (職員)	・客の購買動向は横ばいのため、今後も横ばい状態が続いていく。	
	やや悪くなる	一般小売店 [和菓子] (経営者)	・企業の内部留保が多く、従業員に対する還元が少ないとの発表があったため、個人消費が一層冷え込むのではないかと。
		一般小売店 [事務用品] (営業担当)	・年末にもかかわらず動きが悪い。天候の影響も大きく、季節物の動きが悪い。
百貨店 (総務経理担当)		・消費税増税が原因と思われる景気動向指数の10月度が約7年ぶりに低水準だったことで、客はしばらく慎重になると予想している。	
スーパー (店長)		・消費税増税、時短、残業減などの働き方改革による収入減、物価上昇とマイナスと件ばかりで成長が見込みにくい。	
一般レストラン (経営者)		・例年、年明けは冷え込むが、来年は東京オリンピック、パラリンピックもあり、外国人客に期待したい。	
旅行代理店 (店長)		・消費税増税後、娯楽は買い控え傾向にあるため、やや悪くなる。	
その他レジャー施設 (経営者)		・「ぱっとしない。来年の前半はまず駄目だろう」と、当店だけでなく、同じ路地の何軒かの店の店主も同じようにこぼしている。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	印刷業・製本業 (営業担当)	・年度末にかけて、仕事量は増加が見込まれる。
		金融業 [証券] (営業担当)	・景気関連の指標をみると、米国、中国、欧州、日本共に景気サイクルの底を突いたように見える。
		卸売業 [機械器具] (営業担当)	・年度末に向けて受注量が増えてくる。
		その他サービス業 [ビルメンテナンス] (営業担当)	・東京オリンピックに向けての最終的な補填業務の依頼が見込める。当社でも、既に受注できる案件が確定しており、金額もそれなりのものとなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	出版業（営業担当）	・年度末に向かうが、出版には余り影響はない。クライアントにおいても特段の変化はなく、広告収入が良くなる気配がない。
		輸送業（従業員）	・受注量が変わらない。
		通信業（営業担当）	・国際環境の変動が見通せず、どちらに向くのか現状では判断できない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・2～3か月では大きく悪化する材料も見当たらないため中立としたが、やはり家計消費の低迷は継続しており、中期的には悪化すると考えている。
		不動産業（企画担当）	・オフィスマーケットとしては良い状態が続く。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・年末年始に向けて仕入れの増加を期待しているが、動きは変わらない。
		卸売業〔飲料品（鮮魚）〕（経営者）	・今は余り良くないが、東京オリンピック、パラリンピックまでは何とかかなりそうである。
	卸売業〔機械器具〕（支社長）	・財政事情や人材確保が困難な地方は、国や周辺の大都市の支援が必要であり、景気が上向きには必要な政策と考える。	
	経営コンサルタント	・建築物も一段落し、東京オリンピックを迎えるが、今一つ物流が悪く、売上が停滞している。	
	やや悪くなる	印刷業・製本業（経営者）	・経費等の節約が進む。結果として、受注量が減少し、価格も下がる。
		建設業（経営者）	・具体的な理由はないまま、ボディプローのように徐々に悪化していく。こういう現象が一番危険である。
		建設業（営業担当）	・受注が伸びない。
		建設業（営業担当）	・東京オリンピック開催中、開催後は工事量が減少する。
建設業（経営者）		・東京オリンピックによる好景気が一段落し、全体の仕事量に減少傾向が見受けられる。	
通信業（営業担当）		・東京オリンピック以降は減速する。企業からは輸出のマイナスと国内外の見通しが悪いとの回答が多い。	
卸売業〔機械器具〕（経営者）		・年末年始の休暇があり、通常でも仕事量が減ることに加えて、取引先の売上も落ち込んでいるとの話がある。	
その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・現在はクリスマスや正月といった季節柄の注文があるが、3か月後になると落ち込む。		
悪くなる	出版業（経営者）	・建設業を中心とした東京オリンピック特需の終えんにより、景気は悪化する。	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0